

教育委員会・受講者等の総括

○東京都足立区教育委員会総括

本講座には拠点校として1校、拠点校外でのZoomによる参加校として20校の合計21校から、延べ617人が参加した。参加した学校数は昨年度より4校多く、本区においても本講座に対する需要の高さが伺えた。本講座では、学習指導要領で示される領域ごとの指導と評価のポイントについて、体験的に理解できる充実した内容であったことが受講者アンケートから伺えた。

○東京都足立区受講者感想

前半では、講師の方々から外国語活動・外国語科の指導にあたってのポイントを明確にしていただき、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「書くこと」の指導と評価の事例を他県の先生方と共に学ぶこ

とで、「明日の授業」で生かせる学びができた。また、受講者同士でのアクティビティや協議を行うことで、校内では見えなかった疑問点や改善点を見いだすことができた。

後半では、各区市で実践された授業を観た上での研究協議を他県の先生方とも行い、同時に講師の方から専門的なご指導を受けることで、考えを整理し深めることができた。



○千葉県浦安市教育委員会総括

昨年度の課題を踏まえ、今年度の参加者については、可能な限り外国語科主任や英語専科以外の教員が、市立全小学校から1名以上参加する形をとった。また、第2～5回講座については、市主催の「夏季教育実践講座」を兼ね、本講座の参加者に加え、外国語科主任や中学校教員が参加できるようにした。これらにより、より多くの教員が研修の機会を設け、研修内容を全小学校及び中学校教員に広めることができたことと考える。



○千葉県浦安市受講者感想

講師の先生のご指導がとてもわかりやすかった。どうすれば児童が英語を話すことに自信をつけられるのかというポイントを具体的に話していただき、とても参考になった。特に心に残っていることは、子供の間違いに対して、何気なく直すことである。これまで、児童が間違ったときに、児童の回答を否定すれば児童が自信を失ってしまうだろうし、肯定すれば正しい表現を伝えることができなくなってしまうため、葛藤があった。そして、児童に自信をつけさせることを優先し、細かい間違いは許容していた。しかし、例えば、I like egg.と言ったら、Oh, you like eggs! のように、自然と言い直していけばよいことがわかり、実践している。

○秋田県横手市教育委員会総括

約5ヶ月をかけて全10回の講座を受講してきた成果は、第7回から第10回講座(授業研究)における協議内容の質の高まりという形で表れた。本研修で学んできた小学校外国語教育における望ましい指導の在り方を基に、適切な視点でより自信をもつ的確な協議がなされた。今後も、小学校教員の確かな指導力と高い協働性を生かし、温かく創造的な外国語教育の充実に向けて本市の施策を推進していきたい。

○秋田県横手市受講者感想

本校は、横手市の拠点校として校長、教頭をはじめ全教員が参加させていただいた。昨年度も外国語活動・外国語科を重点教科の一つとして授業改善を進めてきたが、週に1回ないし2回の授業であり、実

際に授業を行う教員とそれ以外の教員とでは、研究に対する温度差が否めなかった。しかし、今年度は10回の講座を全教員が受講し、たいへん有意義なものとなった。その内容が「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせた授業はどのように行うのか」等の講義型から、4技能のワークショップ型の講義、そして授業研究というより実践的なものまで多岐にわたったことも大きな要因である。受講を重ねるたびに、研究協議会や研修会の質も上がり、全員が共有できた。



○福島県いわき市教育委員会総括

毎回の講座が1時間で設定されており、また、講座の時間帯も放課後の時間に設定されているため、参加しやすい設定となっている。

講座の内容が、前半はテーマをもとにした講義を中心とし、後半は授業研究をもとにした協議を中心としており、知識・技能と実践上の課題等に対する知見を得ることができ、研修者自身の今後の授業づくりに役立つ講座内容となっていた。



○福島県いわき市受講者感想

外国語学習の心構えから授業実践まで幅広く取り上げており、大変勉強になった。「言葉を使いながら覚えていく」、講座を通して、まさにその通りだと実感できた。「興味があれば難しくても覚えてしまう」からこそ目的・場面・状況などの課題設定が大事になると、講座を通して考え、その後の学習計画に生かすことができた。外国語の授業を行うにあたり、不安に思うことや疑問に思うことを他の先生方と話し合う機会があまりないので、今後もこのような講座を開いて学ぶ機会を設けていただけるとありがたい。授業を5時間目まで行ってから参加できる研修は参加しやすい。



○新潟県妙高市教育委員会総括

本講座は、Zoomウェビナーを用いたオンラインで実施された。コロナ禍に対応した取組であると同時に、中央の見識のある講師から理論に基づいた実践的な指導を受けたり、他区市の参加者と交流しながら学んだりできたことは、大変貴重な機会であった。当市内の8校の小学校は広域に所在しているため、拠点校を2会場にすることで、ゆとりをもって参加しやすい環境を整えることができた。

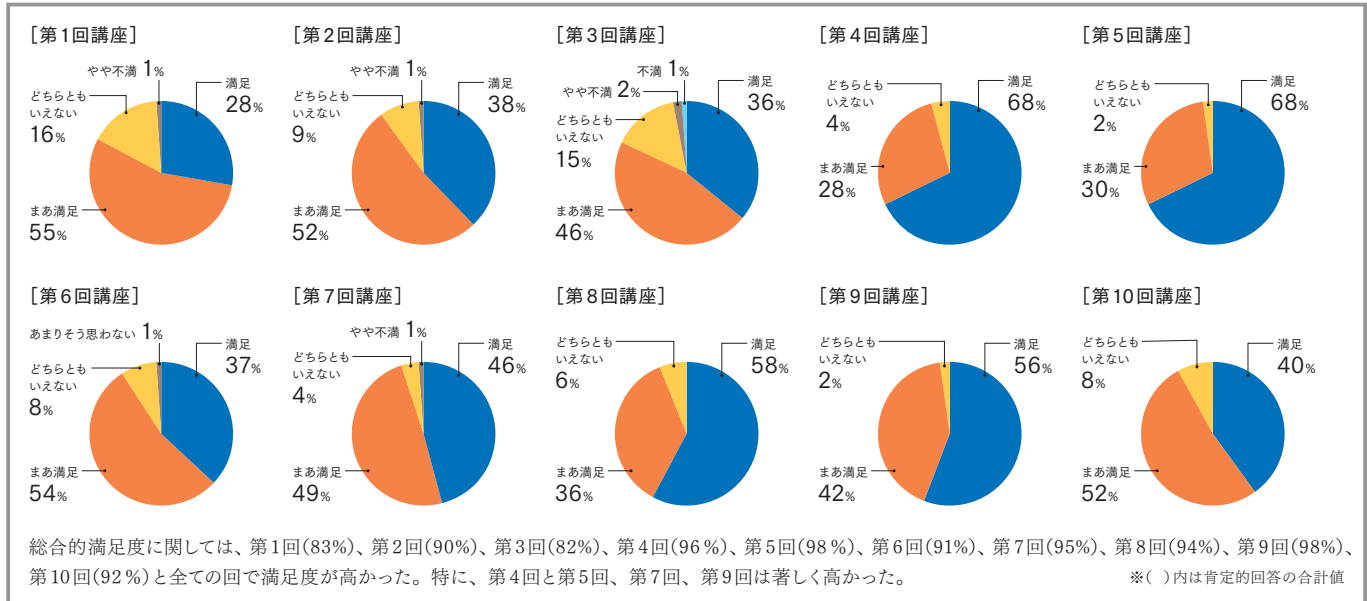
○新潟県妙高市受講者感想

講座の前半では、何をどのように指導して評価するのかを学年ごとにわかりやすく教えていただいた。特に、chantsを利用したALTとのチーム・ティーチングについては、

講座内容に対する評価

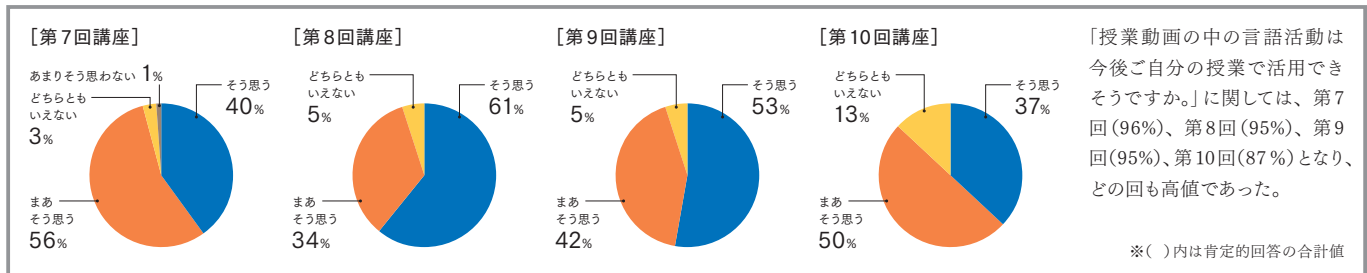
各講座終了後に受講者に対して講座内容に関する評価アンケートを実施した。第1回から第10回までの各講座の評価アンケートの結果と分析の一部を掲載する。講座は第1回から第6回までが講義形式で、第7回から第10回までは授業研究形式の2種類の形式であった。そのため、アンケートの質問も講座の形式によって少し変更した。どちらの形式でも、最初に受講者の属性を知るための4つの質問を設けた。その後には講義形式では14個の質問を、授業研究形式では9個の質問を設けた。全10回合わせて延べ1385人から回答を得た。

○質問：総合的に講座に満足できましたか？

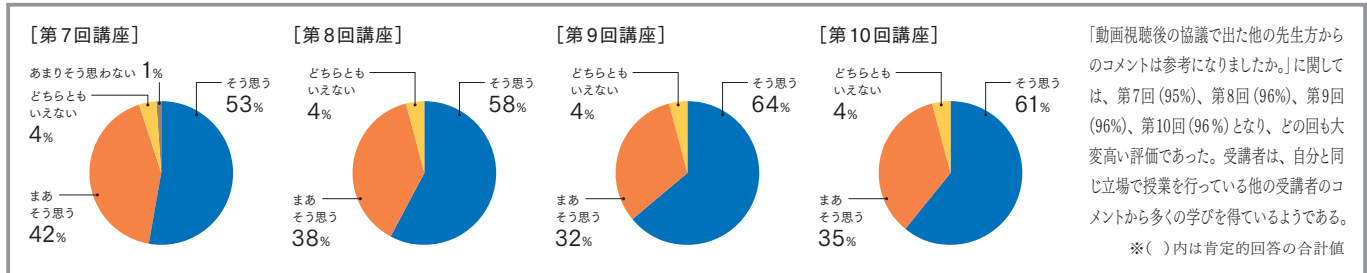


受講者による講座評価アンケートの結果、特に研究授業型講座の評価が高かった。ここではその一部を掲載する。

○質問：授業動画の中の言語活動は今後自分の授業で活用できそうですか。



○質問：動画視聴後の協議で出た他の先生方からのコメントは参考になりましたか。



全講座の詳細は 明海大学 HP に掲載

<https://www.meikai.ac.jp/>

講座前タスク・講座中動画・講座後タスクを含む全講座の詳細はこちらからご覧ください。



文部科学省委託

令和3年度教員養成機関等との連携による 専門人材育成・確保事業

(小学校外国語のための免許法認定講習等実施事業)

— MEIKAI-JOE プラス 小学校外国語科等講座 —

成果報告書(概要版)

令和4年3月



はじめに

明海大学は昭和45年に創立され、外国語学部、経済学部、不動産学部、ホスピタリティ・ツーリズム学部、保健医療学部及び歯学部から構成される半世紀の歴史を有する大学です。社会性・創造性・合理性を身につけ、広く国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成をめざしています。

本学では、中学校及び高等学校の英語科の教員養成に努めてきました。平成30年度には小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)から登録団体としての認証を受けるとともに、教職課程科目「小学校英語基礎概論」を新設し、小学校で外国語科及び外国語活動の授業が行える教員の養成にも着手し、ここ数年間では教員採用試験で毎年10名程度の中・高英語科教員の合格者を出すなど実績を上げています。

本事業の概要

本事業は令和2年度に引き続き、明海大学が令和3年度に文部科学省委託を受けて開発・実施した小学校外国語科等講座です。本講座は、小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)と小学校英語教育学会愛知支部理事の協力を得て、小学校教師の負担を軽減しつつ質の高い授業を行える指導体制を構築するという趣旨を踏まえて実施したものです。

なお、令和2年度は、明海大学のMEIKAI、協力機関のJ-SHINEのJ、そして教育委員会のOffice of EducationのOEをとって、MEIKAI-JOEという略称を使用することにしましたが、令和3年度は、MEIKAI-JOEプラスと名称を変更しました。

1. 対象と目的

令和3年度の本事業では、東京都足立区、千葉県浦安市、秋田県横手市に加え、福島県いわき市と新潟県妙高市の公立小学校教員を対象に「小学校外国語科等講座」を実施し、目的を「小学校の学級担任の多くが抱えている小学校外国語科・外国語活動の指導に対する不安感を払しょくし、授業に積極的に取り組む意欲を向上させるとともに、円滑に指導できる指導力及び英語力を養成すること」としました。実施に当たっては、(株)モアカラーのスタッフにより本学をスタジオとしてZoomによる講座配信を行いました。拠点校(足立区:区立西新井第二小学校、浦安市:市立明海小学校、横手市:市立朝倉小学校、いわき市:いわき市総合教育センター、妙高市:市立新井小学校、市立妙高小学校)及び拠点校外から毎回200名ほどの先生方が受講しました。また、本学の学生も受講したり講座の中で出演したりしました。



2. 講座概要

令和3年7月から12月にわたり、全10回のオンライン講座と特設講座を実施しました。第1回から第6回までは、「講義・ワークショップ型」、第7回からは「授業研究」として、各区市の先生方の授業を視聴して研修に取り組みました。



受講前 受講者は、オンライン講座資料をダウンロードし、事前に提示されたタスクに取り組み、講座当日に臨みました。



受講当日 受講者は、各講座とも高野敬三副学長・外国語部部長のあいさつ、趣旨説明を視聴した後、ワークショップ型の講座をオンラインで受講しました。

受講後 受講者は、講座アーカイブ動画を視聴し、提示されたタスクに取り組みました。またリフレクションシートへの記入や講座評価アンケートへの回答を行いました。








3.各講座内容



【第1回講座】	令和3年7月16日(金) 午後3時30分～午後4時30分	【講座の詳細】	
テーマ:	学習指導要領と第二言語習得理論の理解に基づいた小学校英語教育の心構え		
参加者:	拠点校106名、拠点校外54名		
講師:	J-SHINE 専務理事(上智大学言語教育研究センター長・教授) 藤田 保 教職課程センター・地域学校教育センター 教授 金子 義隆		
概要:	主体的に参加される先生方と本講座の講師が対話しながら日常の授業改善の道を探っていきました。その中で学習指導要領やその背景にある第二言語習得理論についての理解を深めながら、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせた授業はどのように行うのか」などの小学校の先生方が抱える具体的な課題について話し合いました。		



【第2回講座】	令和3年8月2日(月) 午前9時30分～午前10時40分	【講座の詳細】	
テーマ:	読むこと、書くことの指導		
参加者:	拠点校113名、拠点校外58名		
講師:	小学校英語教育学会愛知支部 理事(愛知県立大学 教授) 池田 周		
概要:	本講座では、小学校「外国語活動」「外国語」を通して育成を目指す文字に関する技能、および「読むこと」「書くこと」の資質・能力の理解を構築し、それらの指導のポイントを学びました。特に、文字や「読むこと」「書くこと」の領域において、「何を」「どのように」「どこまで」指導するのかについて、具体的なイメージをもっていただけることを目指しました。さらにその評価のあり方についても、現状の課題を含めてお話ししました。講師によるポイント整理と解説だけでなく、受講者同士の意見交換、実践・課題共有も行いながら進めていきました。		



【第3回講座】	令和3年8月2日(月) 午前10時50分～正午	【講座の詳細】	
テーマ:	chantsを活用したALTとのチーム・ティーチングについて		
参加者:	拠点校113名、拠点校外58名		
講師:	明海大学 多言語コミュニケーションセンター 教授 Patrizia Hayashi / 准教授 Tyson Rode 教職課程センター・地域学校教育センター 教授 百瀬 美帆		
概要:	目標表現をchantsにより導入することで、児童が表現をひと固まりのチャンクとして丸ごと覚え、同じような場面に出会った時に表現をそのまま使うことができるようようにする指導方法を提示しました。英語の音声の特徴にも言及し、(1)くつつく音 (2)落ちる音などをchantsで指導する方法を示しました。参加者がT1としての役割を体験できるワークショップ方式をとりました。		



【第4回講座】	令和3年8月3日(火) 午前9時30分～午前10時40分	【講座の詳細】	
テーマ:	聞くこと・話すことの指導 Lesson 1		
参加者:	拠点校113名、拠点校外57名		
講師:	J-SHINE 会長(玉川大学大学院名誉教授) 佐藤 久美子		
概要:	「話すこと」の基本的な指導法、及び「聞くこと」「話すこと」の評価方法について、具体的なActivityや児童の発表内容に基づきながら理解する内容でした。また、参加者から事前いただいた「児童の発話を増やすための手立て」、「会話を継続させる力をつける活動例」、「児童が英語で対話できるようになるための指導のステップとは」などの質問に、具体例を挙げてお答えしました。講座の中で、講師と受講者とのやり取り(Activity)も一部行いました。		



【第5回講座】	令和3年8月3日(火) 午前10時50分～正午	【講座の詳細】	
テーマ:	聞くこと・話すことの指導 Lesson 2		
参加者:	拠点校114名、拠点校外57名		
講師:	J-SHINE 会長(玉川大学大学院名誉教授) 佐藤 久美子		
概要:	「聞くこと」の基本的な指導法や「Small Talkを生かした4技能を取り入れた効果的な指導方法」、「1人1台端末の効果的な活用場面」、「相手の話す内容を予測しながら聞く力の育て方」など、事前にいただいたアンケートの質問について、実際に小学校で行われている事例を挙げながらお話ししました。All Englishで行う、あるいは日本語を減らす指導法などについても、講座の中で、講師と受講者とのやり取りをも一部入れながらやり取り(Activity)も一部行いました。		


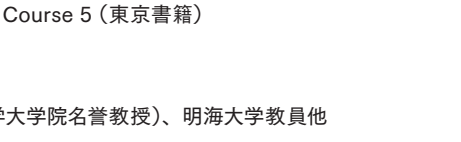
【第6回講座】	令和3年9月21日(火) 午後3時30分～午後4時30分	【講座の詳細】	
テーマ:	小学校から中学校・高等学校への学びの接続		
参加者:	拠点校64名、拠点校外88名		
講師:	明海大学 教職課程センター・地域学校教育センター 教授 石鍋 浩 / 教授 坂本 純一		
概要:	「学校段階間の接続」が重要と言われています。本講座では、小学校から中学校・高等学校における指導へ円滑に接続できるようにするための指導方法や言語活動等について理解することをねらいとしました。		

【第7回講座】	令和3年10月25日(月) 午後3時30分～午後4時30分	【講座の詳細】	
授業研究①	秋田県横手市(指導主事 鈴木 真弓) 参加者: 拠点校75名、拠点校外67名		
授業者氏名:	伊藤 久美 使用教科書: One World Smiles 6 (教育出版)		
学校名:	横手市立横手南小学校		
担当学年:	第6学年	単元名: 「Lesson 4 My Summer Vacation」～夏休みの思い出を伝え合おう～	
概要:	横手市では、「読むこと・書くこと」の講座を基に、第6学年の授業を提案しました。本動画には、単元(全7時間)の第5時「話すこと(発表)」と第6時「書くこと」の学習場面を収めました。「書くこと」の資質能力を、子供たちがどのように身に付けていくのかを捉え、小学校段階での指導の在り方について、考えていきました。		

【第8回講座】	令和3年11月15日(月) 午後3時20分～午後4時30分	【講座の詳細】	
授業研究②	新潟県妙高市(指導主事 丸山 文雄) 参加者: 拠点校95名、拠点校外61名		
授業者氏名:	丸山 恵理 (HRT) 使用教科書: Blue Sky 5 (啓林館)		
学校名:	妙高市立妙高高原小学校	単元名: 「Unit4 She can sing well.」	
担当学年:	第5学年	テーマ: 聞くこと・話すことの指導	
概要:	妙高市では、「聞くこと・話すこと」の講座を基に、第5学年の授業を提案しました。本動画には、単元(全7時間)の第4時「相手の答えを予想して、できるかどうか尋ねたり、答えたりする」学習場面を収めました。児童の「話したい」「聞きたい」という思いを引き出すためにSmall Talkを設定し、スモールステップで「Yes/Noクイズ」を行いました。児童の姿を通して、児童が英語で対話できるようになるための指導のステップが適切であったか、「Yes/Noクイズ」が必然性のあるワークする言語活動になっていたか、皆さんと一緒に考えていきました。		

【第9回講座】	令和3年11月29日(月) 午後3時20分～午後4時30分	【講座の詳細】	
授業研究③	千葉県浦安市(指導主事 山崎 由美) 参加者: 拠点校77名、拠点校外62名		
授業者氏名:	直枝 祐樹 (HRT) 使用教科書: Let's Try2 (文部科学省教材)		
学校名:	浦安市立富岡小学校	単元名: 「Unit4 What time is it?」	
担当学年:	第4学年	テーマ: 聞くこと・話すことの指導	
概要:	お気に入りの時刻とその理由を聞いたり、答えたりする活動を通して、コミュニケーションを図ることの楽しさを感じさせることを目標に本単元の授業を実施しました。担任がT1となり、児童たちにとってのロールモデルとなるよう、積極的にクラスルームイングリッシュを使用しました。音声を十分に聞かせて気付きの場面を作ったり、動作や相づちを交えたりしながら、自分事としてのコミュニケーションとるよう意識して授業を行いました。本時は「話すこと(やり取り)」をねらいとした活動としていますが、授業の流れはこれだけかについて協議していただきました。また、浦安市は文部科学省から教育課程の特例を受けて、1年生から外国語活動を実施しています。そのため、早い段階から文字に関心を寄せている児童いることから、板書やワークシートに文字を使用していました。アルファベットもこれからという段階ではありますが、音声を中心としながらも、文字をどこまで示したらよいかについて助言をもらいました。		

【第10回講座】	令和3年12月10日(金) 午後3時20分～午後4時30分	【講座の詳細】	
授業研究④	福島県いわき市(指導主事 磯上 優美) 参加者: 拠点校91名、拠点校外57名		
授業者氏名:	若松 彩香 (HRT) 使用教科書: NEW HORIZON Elementary English Course 5 (東京書籍)		
学校名:	いわき市立藤原小学校	単元名: 「Unit4 He can bake bread well」	
担当学年:	第5学年	テーマ: chantsを活用したALTとのチーム・ティーチングについて	
概要:	いわき市では、「chantsを活用したALTとのチーム・ティーチングについて」というテーマで、第5学年の授業を提案しました。本動画には、単元(8時間)の第4時の「身近な人について紹介する」という学習場面を収めました。ALTとHRTとのチーム・ティーチングについて、その役割分担やchantsの活用、スモールトークによる導入場面の工夫などを話題にして、協議しました。		

【特設講座】	第10回講座後、リアルタイムでの講座配信ではなく、他市からオンデマンドで動画視聴した後に意見をいただいた	【講座の詳細】	
授業研究⑤	東京都足立区(統括指導主事 三輪 政継)		
授業者氏名:	濱田 亮 (HRT) 使用教科書: NEW HORIZON Elementary English Course 5 (東京書籍)		
学校名:	足立区立西新井第二小学校	単元名: 「Unit4 He can bake bread well」	
担当学年:	第5学年	テーマ: 聞くこと・話すことの指導	
概要:	足立区では、「聞くこと・話すこと」の講座を基に、第5学年の授業を提案しました。本動画には、単元(全8時間)の第1時「できることやできないことについて聞いて、おおよその内容を理解することができる。」学習場面を収めました。担任と英語教育アドバイザーのSmall Talkから始め、児童とやり取りをすることを通して、本時のめあてを引き出しました。児童がペアで話す際は、取組の後に、児童が伝えたかった内容を共有し、再度取り組ませることで、自分の思いや考えを伝え合う言語活動を目指しました。		

講座受講による意識の変容 第7回から第10回(授業研究)

それぞれの講座終了後、受講者には次の6項目についてリフレクションシートに回答するよう求めた。そのうち質問項目4のみ集約した。

- 名前
- 所属
- 勤務校
- 授業実践発表を見て新しく学んだことや気付いたことは何ですか？
- 振り返り協議後に新しく気付いたことは何ですか？
- 講師の指導助言から学んだことや気付いたことは何ですか？

第7回	授業研究①	個々の児童への支援・ヒントカード
		辞典や教師からのヒントカードを通して、ライティングをする時に語彙を豊かにし、安心して自分の表現したいことが表現できる支援がよいと思った。
		ヒントカードの大きさ、児童への渡し方が参考になった。
		書く活動で、わからない単語を短い紙に書いて渡していたことを真似したい。
		話してから書く。
		話す活動や伝える活動では、書いてから話すのではなく話してから書くこと。

第8回	授業研究②	授業の構成
		授業づくりにおいて、ねらいを明確にもち身に付けさせる資質・能力に対して児童が活動する中で変容が見られたとき、その場で価値づけてあげる(評価)してあげることの大切さを学んだ。
		MEIKAI-JOE プラス小学校外国語講座で学んだ「チャンツ」や「グルグル」を実際に授業で活用している様子を見て、大変有効な手立てであると感じた。また、ALTとHRTのスモールトークに少しずつ児童を巻き込んでいく形態が、子供たちが安心感をもって発表することができる効果的な手立てであると感じた。また、クイズ形式で行う言語活動が、子供たちのもっと「知りたい」を引き出しており、外国語活動の目指す児童の姿を表していた。そういった、相手について「知りたい」や「伝えたい」という思いを小学校段階で育てていくことが今後の児童の学ぼうとする意欲につながると思わせてくれた。

第9回	授業研究③	外国語活動
		4年生でも聞き取る力が非常にについて驚いた。学習の最中にめあてを振り返らせる場面がしっかりとあったので、子供たちの活動がブレずにできたと思う。
		外国語活動の時からリアクションを意識させることで、高学年の外国語科学習での相手意識をもった活動につながると思った。

第10回	授業研究④	学級担任(T1)としての役割・他の先生方の協力(動画の利用)
		学級担任だからこそ子供の個性や特技に即した指名を行うことができる。また、一人一人が答えることができたことによって、子供たちが自信を持つことができていた。身近な先生方に協力をお願いして動画を準備することによって、子供たちの興味関心を引くことができた。また授業後に動画に登場した先生との英語での言語活動が期待できることを学んだ。
		担任の元気さや明るさのよさや何でも声に出せる雰囲気よさ、子供の声をその都度拾い返してあげる大切さ(swimming→swim)等。おそらくパターン化している授業の繰り返しも、子供たちが安心して学べる環境につながっていると考えられる。楽しい雰囲気は先生達が話す言葉を理解したいと思わせる意欲を喚起しそうだ。
		HRT、ALTによるSmall Talkの他に、身近な人(動画による他の教師)が関わることにより児童の学習意欲を高めることができるということ。
		チャンツでは、HRTとALT、児童が歌う部分を分けるという工夫を知ることができた。